

2 近畿圏における「本物」資源の抽出・整理

2.1 「本物」を活かした地域づくりの概念

近畿圏の「本物」資源の抽出・整理を行う前に、本業務で考える『「本物」を活かした地域づくりの概念』を整理するうえでは、

「本物」とは何か、

本物を「活かす」とはどういうことか、

本物を活かした「地域づくり」とはどういうことか

これらを順を追って整理する必要があり、以下にその考えを示す。

(1) 「本物」とは

- ある対象が「本物」だという場合は、その本物という概念の中には、その対象が有する独自性、歴史性、知名度、希少性、こだわり、誇りなどの、人々がすぐにイメージを思い浮かべることのできる共通の目安があると考ええる。
- 本物となりうる対象は、その地域の「物」や、「場所」や、「暮らし」であると考えられる。
- 「物」、「場所」、「暮らし」はそれぞれが別々に分かれているのではなく、大概が相互に強い係わり合いを持って存在しており、特に本物の度合いが強く特徴付けられている対象がどこに重きがあるかで分かれてくると考える。
- これらの本物の対象を、地域資源分類という観点で、小分類すると、以下のような分類が考えられる。
 - 1) 農林水産資源: 地域特産の農林水産品や一次加工品 等
 - 2) 産業技術資源: 伝統技術(匠の技)そのものやその製品 等
 - 3) 歴史的資源: 歴史的建造物や空間、人物 等
 - 4) 伝統文化資源: 地域の伝統的な行事や生活様式 等
 - 5) 芸能芸術資源: 伝統芸能や美術的価値のある物品 等
 - 6) 自然環境資源: 豊かな自然環境や里山、環境共生の暮らし 等
 - 7) ランドマーク資源: まちのシンボリックな空間 等

(2) 活かすとは

- 「本物」を活かすという場合には、本物との関わり方から、以下の4つの活かす人と活かし方に整理できる。
- 「本物」資源の本当の価値を熟知し、こだわりを持つ普遍的なファンとして、「本物」資源を厳しい目で見守り、育てるための支援も惜しまない人たち。
- 「本物」資源にこだわり・誇りを持つ人々(活動団体、企業、地域のまちづくり活動家等)で、保全・継承・活用に取り組み、地域の人々や他地域の人々にその魅力を伝え、地域の活性化につながる活動をする人たち。
- 地域の生活者として、「本物」資源を地域の宝として理解し、こだわりと誇りを持って活動支援・参加する人たち。
- 地域の来訪者として、「本物」資源のファンとなって来訪・支援し、さらに、その魅力を他にも伝え・広める人たち。

- 国、都道府県、市町村等の関係機関は、「本物」資源の保全・継承・活用等に対する上記人々と連携し、支援・協議・調整等を行う立場で参画する。

(3) 地域づくりとは

- 「本物」の地域資源の価値・魅力に対し、こだわりと誇りを持って「活用し活かそうとする人たちが」、地域の人々(生活者)や他の地域の人々(来訪者)に働きかけを行いながら、様々な主体が一緒になって、「地域づくり」として、本物を活かす活動が地域全体に広がっている状態、地域の元気が継続している状態を言う。

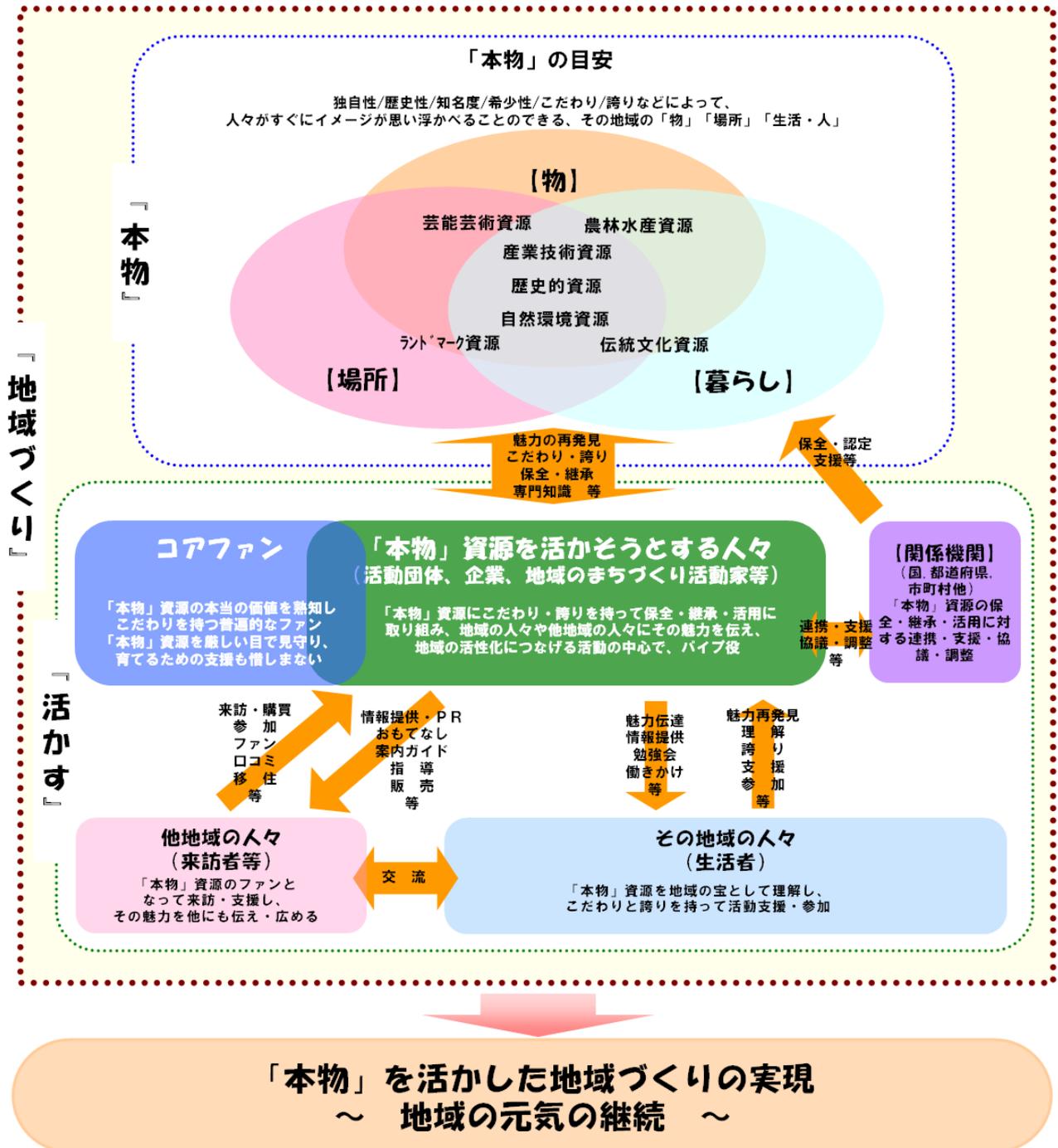


図 2.1 「本物」を活かした地域づくりの概念図

2.2 近畿圏における「本物」資源の抽出・整理

各府県で策定されている「地域産業資源活用事業の促進に関する基本的な構想」に位置づけられている地域資源や、「広域都市圏動向分析」として、平成20年2月に近畿圏の各市町村を対象に実施したアンケート結果を踏まえ、近畿圏における「本物」資源を抽出・整理した。

なお、近畿圏における「本物」資源の詳細については、巻末資料に添付し、本章では、その概要として府県ごとに保有資源を分類した表を示す。

表 2.1 特記仕様書との整合表

	農林水産資源	産業技術資源	歴史的資源	伝統文化資源	芸能芸術資源	自然環境資源	ランドマーク資源	合計
滋賀県	45	43	104	21	18	45	10	286
京都府	161	116	176	45	64	134	8	704
大阪府	120	200	24	32	46	19	0	441
兵庫県	293	98	203	19	43	102	29	787
奈良県	112	70	137	10	23	83	3	438
和歌山県	144	55	89	11	15	49	6	369
合計	875	582	733	138	209	432	56	3,025